



東京のまちづくり活動トピックス

北区まちづくり(まちづくり北)

「できる人ができる時に」を合言葉に、医療用ポリ袋防護服づくりに協力しました

新型コロナウイルスの影響で、医療や介護の現場では、マスクや防護服、フェイスシールド不足が深刻な状況になりました。

「北区まちづくり」メンバーの「東京ほくと医療生協」では、法人全体で一週間に1,000枚の簡易防護服が必要ということで、業務用ポリ袋を使って組合員が手作りを始めましたが、まだまだ不足しているという声がまちづくり活動メンバーにも届きました。

作り方や準備する材料を「東京ほくと医療生協」で作成したYouTubeから学び、在宅となっている今だからこそできる活動として製作協力を行いました。



慣れると袖ありは5分、袖なしは1分で1枚作れます

この情報は「東京ほくと医療生協」が参加している「荒川区まちづくり」や「足立区まちづくり」にも伝わり、組合員やまちづくりメンバーの協力で、5月25日現在、12,390枚の手作り簡易防護服や、3,365枚の手作りフェイスシールド、549枚のアームカバーを現場に届けることができました。

想いが詰まったこれらのものは、病院や診療所、また訪問介護や介護士さんたちにも使われ、現在も製作は継続しています。

《北区まちづくり 構成メンバー》
コープみらい・パルシステム東京・東都生協
生活クラブ生協・東京ほくと医療生協
東京ふれあい医療生協・東京都生協連

生協のまちづくり☆八王子

「はちおうじ子ども食堂」がはじめたフードパントリーへの協力を呼びかけました



はちおうじ子ども食堂に届けられたたくさんの食料

「生協のまちづくり☆八王子」ともつながりがある「はちおうじ子ども食堂」は、八王子に住む学生たちが立ち上げた団体です。

各生協もフードドライブで余剰食材の提供を行うなどの支援を行っていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月以降は食堂を休止せざるを得なくなりました。

しかし、非常時こそ食事支援の継続が必要と考えたスタッフの皆さんは、食堂を再開できるようになるまでの間、フードパントリーに取り組むことにしました。連絡を受けた「生協のまちづくり☆八王子」のメンバーは、食材の寄付や、フードパントリーへの協力を呼びかけを行いました。

フードバンクをはじめ、「生協のまちづくり☆八王子」のメンバーでもある生協も食材の寄付に協力しました。17日の第1回目では、13組(51名分)に提供することができ、受け取られた皆さんからうれしい感謝の声が寄せられたとの報告がありました。中には手作りマスクの寄付もあり、とても喜ばれた初回となりました。

《フードパントリー開催日時と開催場所》
開催日時：5月17日(日)より随時開催
募集期間：8月末まで
配布場所：アミダステーション(八王子市東町3-4)

《生協のまちづくり☆八王子 構成メンバー》
コープみらい・パルシステム東京・東都生協
自然派くらぶ生協・八王子保健生協
生協消費者住宅センター